

法政大学大原社会問題研究所

所 報

(2002.2.1~2.28)

人事(2月28日)

在外研修終了 五十嵐 仁

刊行物

『大原社会問題研究所雑誌』520号(2002年3月)

図書受入

	和書	洋書	計
購入	53	33	86
受贈	40	3	43
合計	93	36	129

閲覧サービス

閲覧

開館日数	23日
閲覧人員	31名
貸出図書	81冊

コピーサービス

学外	33件	3644枚
学内	7件	193枚

日 誌

- 2日 加齢過程における福祉研究会
報告者 正門由久氏(慶應義塾大学医学部
リハビリテーション医学教室)
テーマ 「リハビリテーション医療 脳卒
中から自宅に至るまでの流れ」
- 6日 法学部(B方式),文学部(B方式),経済学
部(B方式),現代福祉学部(B方式)入試
- 7日 見学来所:神奈川県横浜労働センター課長補
佐・泉政伸氏ほか1名
- 9日 現代労使関係・労働組合研究会
講師 坂内三夫氏(全労連事務局長)
テーマ 「全労連の組織拡大政策」
現代福祉学部(A方式),情報科学部入試
- 10日 工学部入試(日程)

- 11日 経営学部入試
- 12日 経済学部入試(A方式)
- 13日 工学部入試(日程)
- 15日 社会学部入試
- 16日 法学部入試(A方式)
- 17日 文学部(A方式)入試
- 18日 国際文化学部入試
- 19日 人間環境学部入試
小宮昌平氏(政治経済研究所)より農村イン
ター関係の雑誌受贈(段ボール1箱)
- 26日 事務会議
- 27日 運営委員会
議題 諸報告
運営委員(兼任研究員)人事につい
て
兼任研究員人事について
客員研究員および嘱託研究員人事に
ついて
「中期計画(素案)」討議の進め方に
ついて
その他
記念公開講演会
講演者 石井暎禧氏(医療法人財団・石心
会理事長,狭山病院院長)
テーマ 「老人医療の現状と政策の流れ」
研究員総会
懇親会

大原社会問題研究所雑誌 No.523(2002年6月号)
2002年6月25日発行
定価 1,000円(本体952円),年間購読料12,000円

編集(兼)発行人 法政大学大原社会問題研究所
所長 早川征一郎
〒194-0298 東京都町田市相原町 4342
電話 042(783)2307

投 稿 募 集

本誌は社会・労働問題に対する論文、調査報告を募集しております。下記の規定に基づいてご投稿下さい。

投 稿 規 定

1. 投稿原稿は2部とし、ワープロ作成による未発表のものに限ります。
2. 原稿の分量は、原則として20,000字以内（図表を含む）とします。
3. 原稿には、審査に資するため、600字以内の要約を添付してください。
4. 原稿の採否は、本誌編集委員会が指定する審査員の査読を経て、本誌編集委員会が決定します。
5. 初めて投稿される方は、研究歴など簡単な履歴を添付してください。
6. 掲載原稿には、所定の原稿料をお支払いいたします。

【原稿送付先】

〒197-0298 東京都町田市相原4324

法政大学大原社会問題研究所

『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会

論 文 執 筆 要 領

論文を執筆される場合には、下記の点に留意してください。

執筆者校正の際には、原則として原稿を返却しませんので、原稿のコピーを確保しておいて下さい。

原稿をプリントアウトする場合には、ある程度の行間を取って下さい。

- 1 一般的な原則
 - 横書きとする。
 - タイトル、氏名の次に簡単な目次をつける。
 - 原稿の最後に、執筆者名（ひらがな）、肩書き（所属、職名）を記入する。肩書きは大学の場合には、学部、研究所等の名称まで表記する。
 - 注をつける場合には、各章ごとに分割せず、最後に一括し、通し番号をつける。
 - 図、地図などは、可能な限りトレース済のものを提出する。
- 2 注記の方式
 - 日本語の図書・論文の場合
 - A. 日本語で書かれた図書については、著者名、書名（書名は『 』で囲む）、出版社名、発行年（原則として西暦）の順に書く。ページ数を記入する場合には、発行年の次に記入する。
 - B. 著者が2人の場合には、両者の姓名を書く。3人以上の場合には、「 他 」の方式も可とする。
 - C. 論文については、執筆者名、論文名（「 」で囲む）、掲載雑誌名（『 』で囲む）、巻号、発行年月日の順に書く。
 - D. 注の最後は、かならず「。」で止める。
 - 欧文の図書・論文の場合
 - A. 欧文の図書については、著者名、書名、発行地（あるいは出版社名）、出版年を書く。書名は、イタリックにするので、下線を引くなどして書名の部分を他の部分と区別する。
 - B. 論文の掲載雑誌名は、イタリックとする。
 - C. 再出を示す「ibid.」「op. cit.」などもイタリックにする。
 - D. 注の最後は、かならず「。」で止める。

以上